

長久手市行政評価票 (A票：事業評価票)

事業番号	88	事業名	適応指導教室事業	担当部課	教育部教育総務課
基本情報	第6次総合計画・基本目標	2 子どもが元気に育つまち		決算書	—
	行政改革指針・重点課題	—		会計	一般会計
	法定受託事務の有無	無		区分	予算区分(款一 項一 目)
	その他(関係計画、要綱等)	無		9-1-1 教育委員会費	
事業開始の背景、経緯等	全国的な問題である不登校の対策として、学校生活に適応できない児童生徒を対象に、学校以外の場で配慮した指導を行うために適応指導教室を設置。				
市民・民間事業者との連携協働の可能性	両者と協働不可		(両者と協働不可の場合はその理由) 事業の性質上、協働、市民参加する事業には該当しないため。		

事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) ・個々の児童生徒に応じたプログラム学習(スポーツ、体験活動、個別学習) ・保護者の会「こーひーぶれいく」を各学期に1回実施 ・学校との連携(学校訪問、運営委員会、連絡会)
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 学校生活に適応できない児童生徒
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 不登校児童生徒が適応指導教室で安心して過ごすことができ、学校や社会への復帰を目指す。

項目	単位	区分	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
			(2016)	(2017)	(2018)	(2019)	(2020)
事業費(A)	千円	予算	8,416	8,272	10,316	10,323	22,080
		決算	8,229	8,056	9,097	9,359	
人件費(B)	千円	決算	2,013	1,095	874	8,567	
総コスト(C)=(A+B)	千円	決算	10,242	9,151	9,971	17,926	
事業対象の数(D) (R2年度は想定数)	人		23	29	35	22	15
対象あたりコスト(C/D)	千円		445	316	285	815	

成果指標 (事業の意図を反映する指標)	単位	区分	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
			(2016)	(2017)	(2018)	(2019)	(2020)
適応指導教室指導員とスクールソーシャルワーカーとの定期連絡会	回/週	目標	—	—	1	1	1
		実績	—	—	1	1	
(指標の設定根拠)			(数値目標の根拠)				
不登校及び登校渋りのある児童生徒について、適応指導教室指導員とスクールソーシャルワーカー間の情報共有の機会として定期連絡会を実施し、学校への復帰や必要な関係機関への連携につなげるため。			1週間あたりの定期連絡会の実施回数				
(前年までと変更した場合はその理由)							

目標達成状況・分析コメント	(成果指標等の目標に対する達成状況・分析状況や進捗状況など) スクールソーシャルワーカーを中心として、学校や関係機関との情報共有を密に行うことで、家庭への働きかけを含め、学校への復帰に必要な支援を多角的に行うことができた。
活動エピソード	(活動のエピソード、コメント、特記事項など) ・適応指導教室指導員を増員し、相談体制の拡充を図った。 ・スクールソーシャルワーカーと定期連絡会を実施することで、不登校及び登校渋りのある児童生徒について情報共有を行い、学校が関係機関との連携につなげることができた。
改善ポイント	(改善が必要なこと、改善の方法など) ・適応指導教室へも通うことができない、家庭にいる児童生徒が増加しているため、家庭訪問等必要な支援を行うために、スクールカウンセラーや心のアドバイザーとも連携していく必要がある。 ・適応指導教室の利用人数が増加傾向にあるため、適応指導教室の規模の拡大について検討が必要である。

事業を構成する事務事業①	事務事業① 適応指導教室事務事業							
	活動指標 (事務事業の具体的な活動の指標)	単位	区分	R1年度 (2019)	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)	R5年度 (2023)
	(1) 市民参加の延べ人数	人	見込					
			実績					
【アクションプラン】 (2) スクールソーシャルワーカーとの定期連絡会実施回数	回/週	見込	1	1	1	1	1	
		実績	1					
(3)		見込						
		実績						
<備考:活動の概要(R1年度(2019))> ・スクールソーシャルワーカーと適応指導教室指導員との定期連絡会を週1回実施し、不登校及び登校渋りのある児童生徒についての情報共有を行った。 ・保護者の会「こーひーぶれいく」を年3回実施した。							今後の方向性	拡充

事業を構成する事務事業②	事務事業②							
	活動指標 (事務事業の具体的な活動の指標)	単位	区分	R1年度 (2019)	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)	R5年度 (2023)
	(1) 市民参加の延べ人数	人	見込					
			実績					
(2) 【アクションプラン(総合計画)の指定の指標】		見込						
		実績						
(3)		見込						
		実績						
<備考:活動の概要(R1年度(2019))>							今後の方向性	

事業を構成する事務事業③	事務事業③							
	活動指標 (事務事業の具体的な活動の指標)	単位	区分	R1年度 (2019)	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)	R5年度 (2023)
	(1) 市民参加の延べ人数	人	見込					
			実績					
(2) 【アクションプラン(総合計画)の指定の指標】		見込						
		実績						
(3)		見込						
		実績						
<備考:活動の概要(R1年度(2019))>							今後の方向性	

今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 適応指導教室の機能の充実を図るとともに、家庭にいる不登校児童生徒に対して、スクールソーシャルワーカーが中心となって、学校や関係機関との連携を図り、家庭への訪問等、学校への復帰に必要な支援を行う。
中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 令和5年度までに家庭にいる不登校児童生徒に対して、家庭への訪問等による支援体制を確立する。

内部意見	総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 ・第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。
内部意見への回答	